



「住み慣れた地域で生き生きと」

よさってくらぶで取り組む「いきいき百歳体操」を体験

市は「第1回よさってくらぶ自慢大会」を10月11日、前沢ふれあいセンターで開催しました。住民主体の通いの場「よさってくらぶ」の活動事例を紹介し、介護予防や健康づくりへの関心を高めようという目的としています。

「聞いてほしい！おらほの『よさってくらぶ』と題し、市内の3グループが取り組みのきっかけや、やってみて良かったことなどを発表。「いきいき百歳体操を続けて、階段を上るのが楽になった」などの自慢に、参加者は興味深く聞き入っていました。



「理想のパートナー探しを応援します」

「i-サポ奥州」の看板を設置して開所を祝ったオープニングセレモニー

「いきいき岩手」結婚サポートセンター「i-サポ奥州」が、10月1日メイプル2階にオープンし、千葉茂樹副知事、i-サポを運営するいきいき岩手支援財団の佐藤勝専務理事、小沢昌記市長など関係者が出席して開所式を行いました。

県や市などが協力して運営するi-サポは、盛岡市、宮古市に続き3カ所目の設置。会員登録制で出会いの機会を提供し、パートナー探しをサポートします。まずは電話でご相談ください。(☎01188、開所時間午前10時～午後7時、休日☎ほか)

みずさわ 地区民総参加で作るまつり 第1回常盤まつり

第1回常盤まつり（同実行委員会主催）が10月14日と15日、常盤地区センターで開催されました。同センターの指定管理の開始に伴い、「みんなあつまれ『ときわの日』」、「常盤地区文化祭」などの地区行事を見直して生まれたこのまつり。ステージショーや作品展示、軽トラ市などが行われ、まちに活力を呼び込みました。開会にあたり遠藤清逸実行委員長（69）は「まつりは協働のまちづくりの初歩的な実践。みんなで盛り上げたい」とあいさつし、新たな歩みを喜びました。



ステージイベントの最初を飾った常盤幼稚園園児による発表



歌や手遊びなどで楽しみ、互いの交流を深めた

えさし ぬくもりを届け安心伝える のんびり青空レストラン

市認知症支援ぬくもり隊（菊地正宏隊長）が主催するのんびり青空レストランが10月30日、玉里地区センターで開催されました。同隊が運営するぬくもり農園で収穫した野菜をメインとした芋の子汁や漬物などがテーブルを飾ったほか、水沢オカリナの会「パストラレ」による演奏で会場は和やかな雰囲気になりました。女性仲間に参加した江刺区の伊藤節子さん（69）は「認知症の人が閉じこもることがないように、周囲の理解と支えが必要」と隊の活動に感心していました。

みずさわ 伝統の鉄器に人が集う祭典 第38回市南部鉄器まつり

南部鉄器まつり（同実行委員会主催）が10月7日と8日、市鑄物技術交流センターで開催されました。4割引きの価格で南部鉄器が買える即売会が行われることもあり、市内外から多くの人々が訪れました。会場では、南部鉄器料理教室やアルミ鑄物作り体験などのイベントも実施。恒例の弁慶鉄下駄飛ばし大会小学生の部では、羽田小学校6年の今野暁弥君（12）が9m75cmの新記録で優勝し「2連覇できてうれしいです」と喜びの笑顔を見せました。



鉄下駄飛ばし大会の各部門で記録更新が相次いだ

いさわ 大自然に囲まれリラックス 胆沢ダムフェス2017in秋

胆沢ダムフェス2017in秋が10月7日と8日、同ダム周辺で行われました。湖面巡視体験会やダムカフェ、ダムヨガなどのイベントが行われ、秋の行楽シーズンを楽しむ多くの人々が訪れました。初開催となるダム堤体天端でのダムヨガを主催したインストラクターのMaru（阿部麻利子）さんは「念願だった胆沢ダムで開催できてうれしい。ヨガは呼吸が大事。外でやると呼吸が整うので、ぜひ子どもたちと一緒にヨガを楽しんでほしい」と話していました。



ダム堤体でヨガを体験する参加者たち



干している途中で崩れないよう丁寧に積み重ねた

いさわ おいしいもち米できたかな 内田ため池「田んぼの学校」稲刈り

「田んぼの学校」の稲刈りが10月15日、地元住民や小学生、岩手大学の学生、胆沢野野土地改良区などが参加して、胆沢区若柳の内田ため池周辺で行われました。地元農家から刈り方や束ね方の説明を受けた後、田んぼに散らばって作業。昔ながらの手作業に苦労しながらも、鎌を片手に頭を垂れる稲穂を刈り、実りの秋を実感しました。ホンニョ掛けでは小学生が岩手大学の女子学生扮する早乙女隊からやり方を教わるなど、楽しそうに作業する様子が見られました。



弓矢的当てに挑戦（左上）、かわらけ絵付けを楽しむ（左下）、アユの塩焼きがお出迎え（右）

まえさわ 中世時代にタイムスリップ 白鳥館遺跡・鮎まつり

白鳥館遺跡・鮎まつり（同実行委員会主催）が10月15日、同遺跡と白鳥地区防災センターを会場に開催されました。地域住民らが歴史衣装を身にまとい、中世の雰囲気再現したイベントで遺跡をPRし、世界遺産の追加登録を後押しします。同センター会場では300食限定の北上川産天然アユの塩焼き販売が行われ、同遺跡会場ではちびっこ弓矢的当てやかかわらけの絵付け体験など、来場者はさまざまなイベントを楽しみました。